



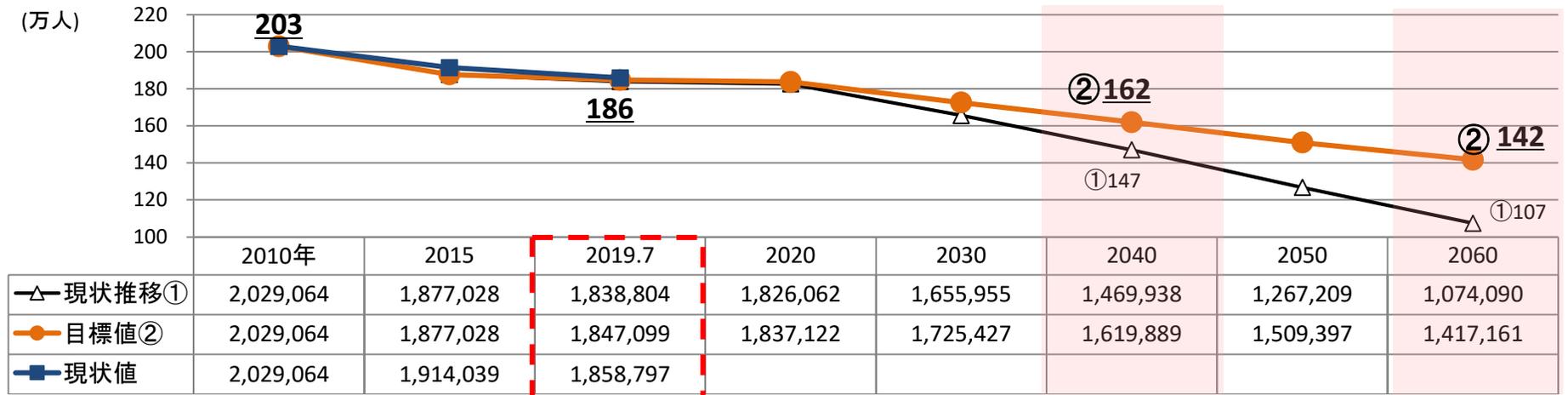
## 目次

1. 本県人口の動向
2. 合計特殊出生率・出生数、未婚率の推移
3. 健康寿命・平均寿命
4. 定住・二地域居住の実績推移
5. 産業構造の現状
6. 外国人の動向
7. 〔参考〕福島県の特徴（ポテンシャル）

福島県復興・総合計画課

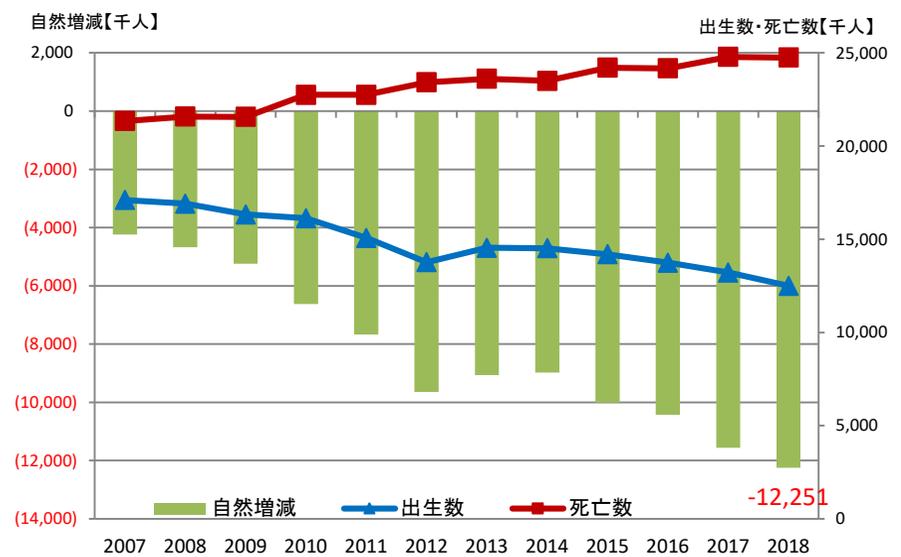


## ○ 福島県の人口動向と将来人口推計 (2010-2060)



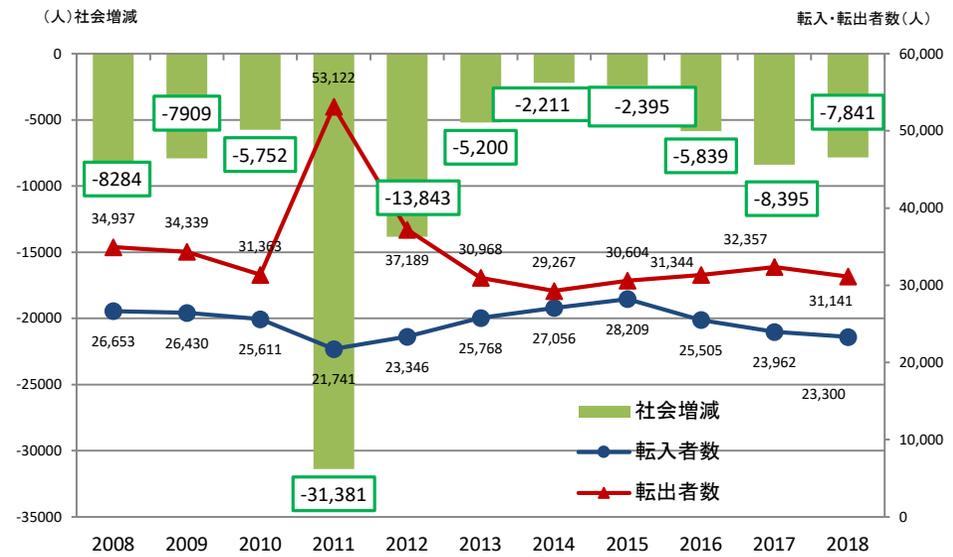
出典: 福島県人口ビジョン(平成27年11月)、福島県の推計人口(福島県現住人口調査月報)  
※避難者の動向を反映

## ○ 福島県の自然動態増減の推移 (2007-2018)



出典: 厚生労働省「人口動態統計」

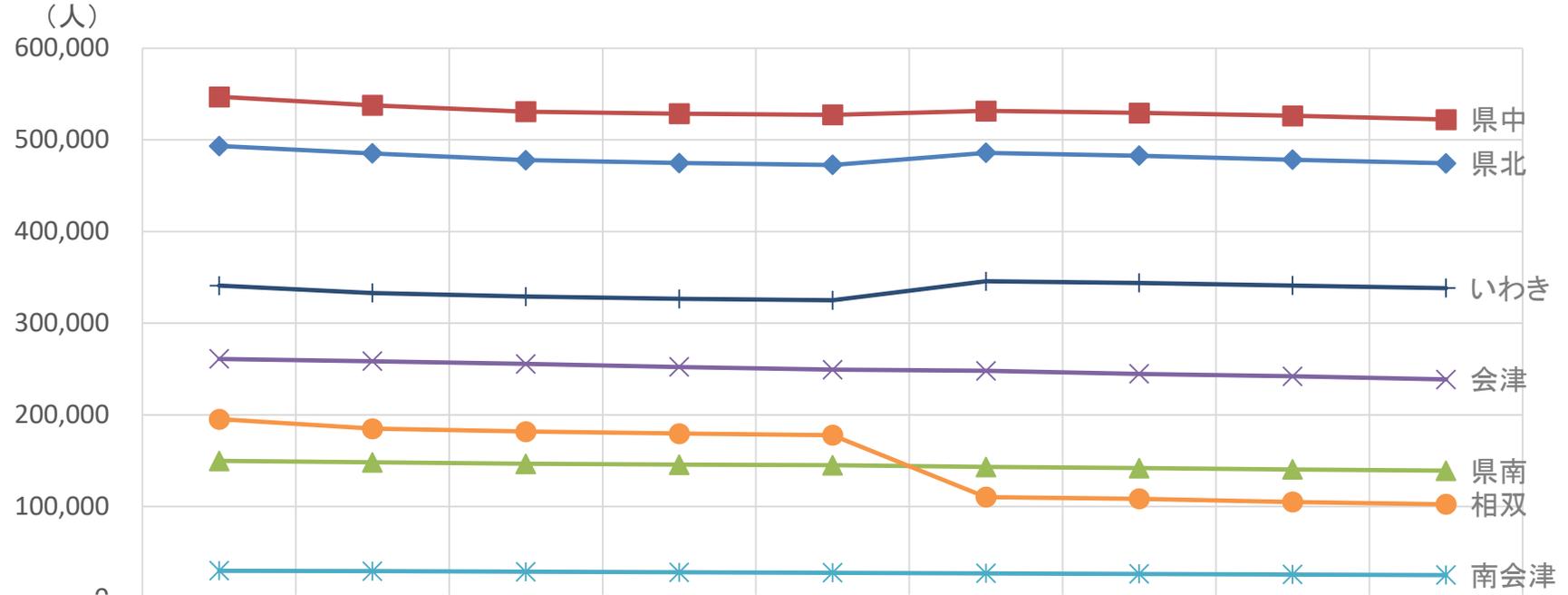
## ○ 福島県の社会動態増減の推移 (2008-2018)



出典: 総務省「住民基本台帳人口移動報告」(日本人人口)

## ○ 県内7地域別人口の推移 (2010-2018)

出典：福島県の推計人口(福島県現住人口調査年報)「(平成30年版)」

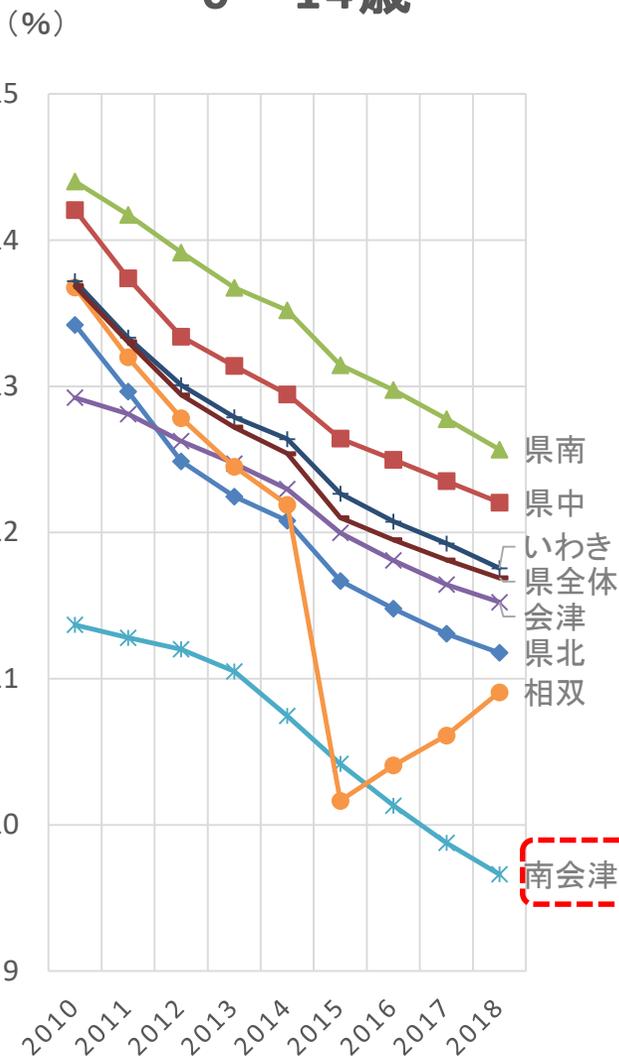


	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	(2010→2018の割合)
県北	493,248	485,257	477,893	474,791	472,708	485,802	482,756	478,280	474,383	96.1
県中	547,008	537,707	530,696	528,549	527,300	531,534	529,407	526,201	522,051	95.4
県南	149,682	148,160	146,617	145,624	144,947	143,066	141,875	140,431	139,106	92.9
会津	260,970	258,536	255,504	252,220	249,297	247,981	244,780	241,968	238,554	91.4
南会津	29,881	29,404	28,889	28,270	27,666	27,136	26,548	25,898	25,294	84.6
相双	195,236	184,861	181,671	179,480	177,753	110,252	108,402	104,906	102,389	52.4
いわき	340,953	332,984	328,977	326,560	324,873	345,689	343,906	341,119	338,349	99.2

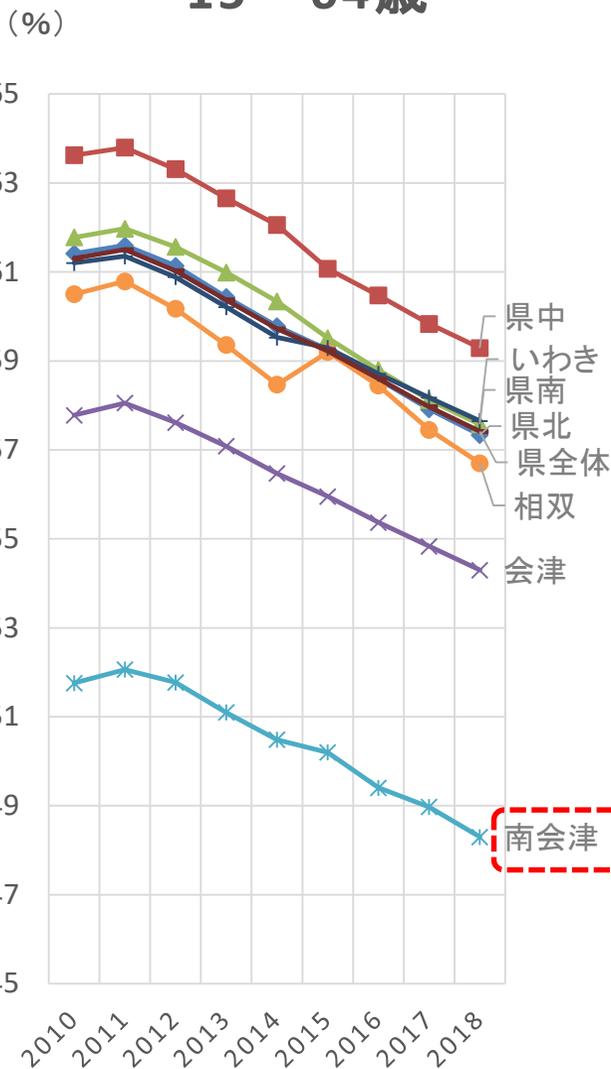
\* 1 2015年に増減しているのは、2015年国勢調査結果値に切り替えたため  
 \* 2 統計上、檜葉町、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村の人口については計上されていない。

## ○ 県内7地域別年齢構成の推移

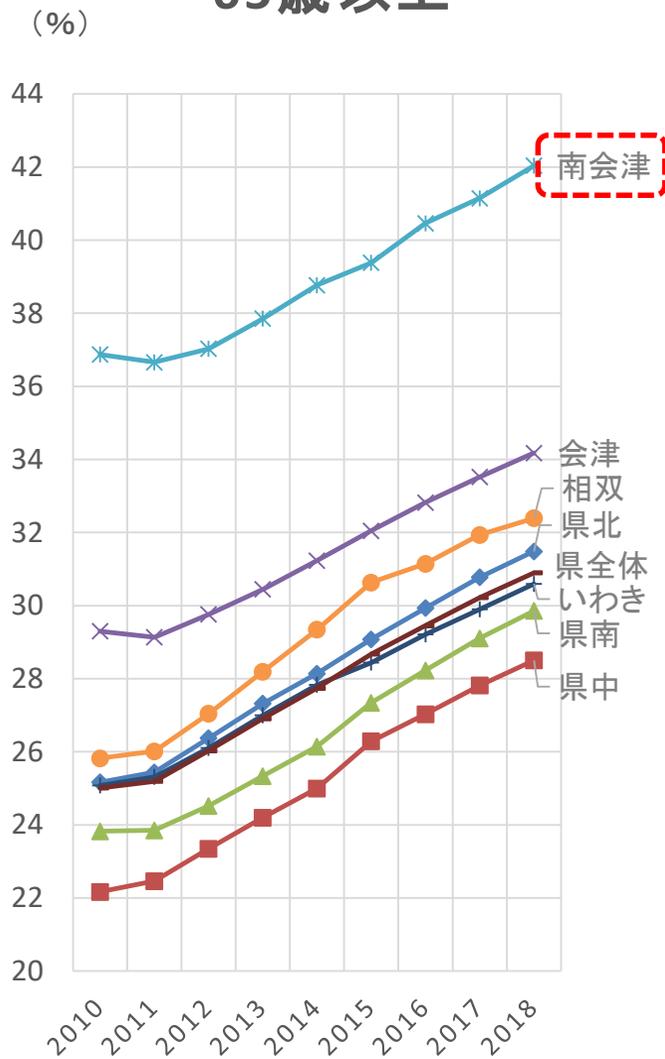
### 0～14歳



### 15～64歳



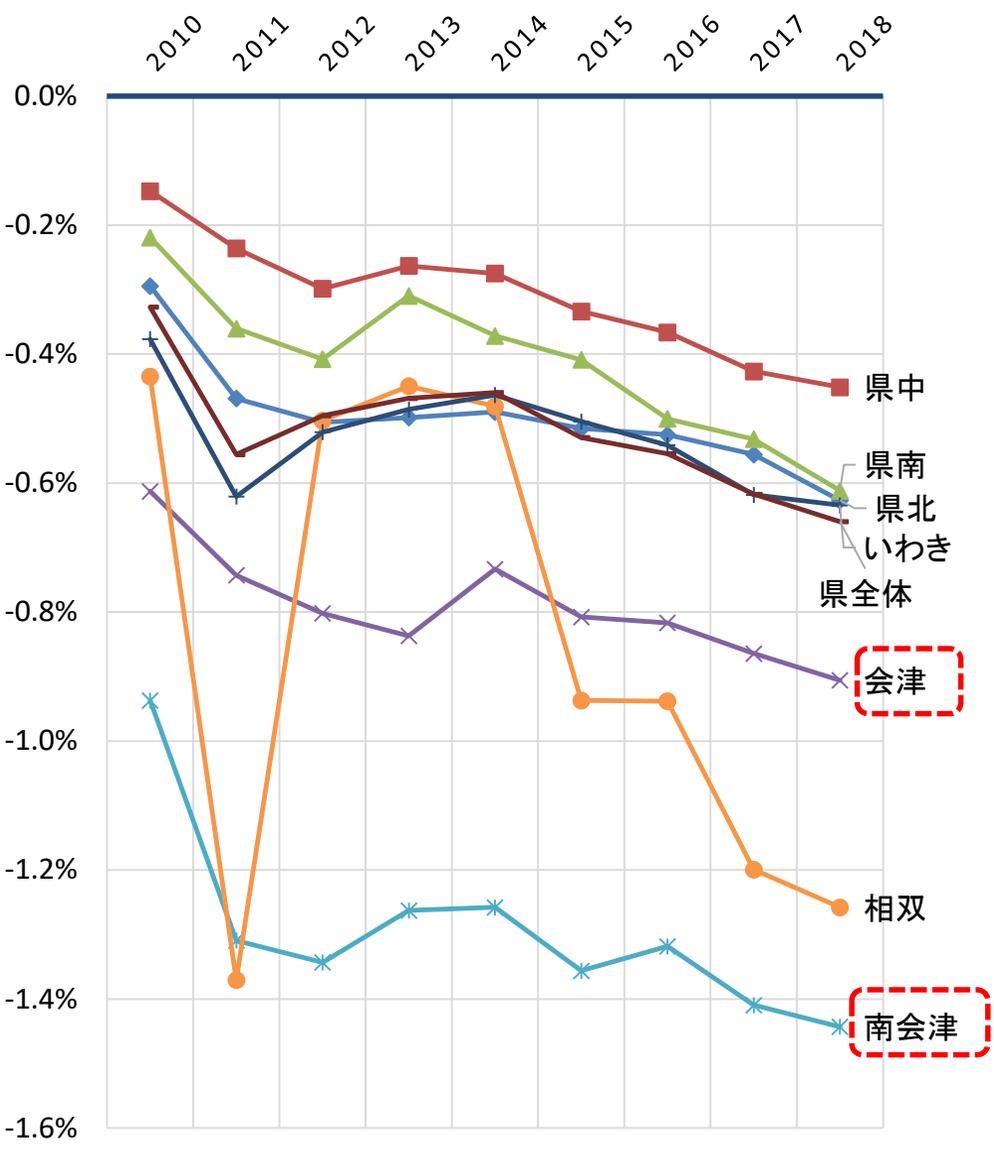
### 65歳以上



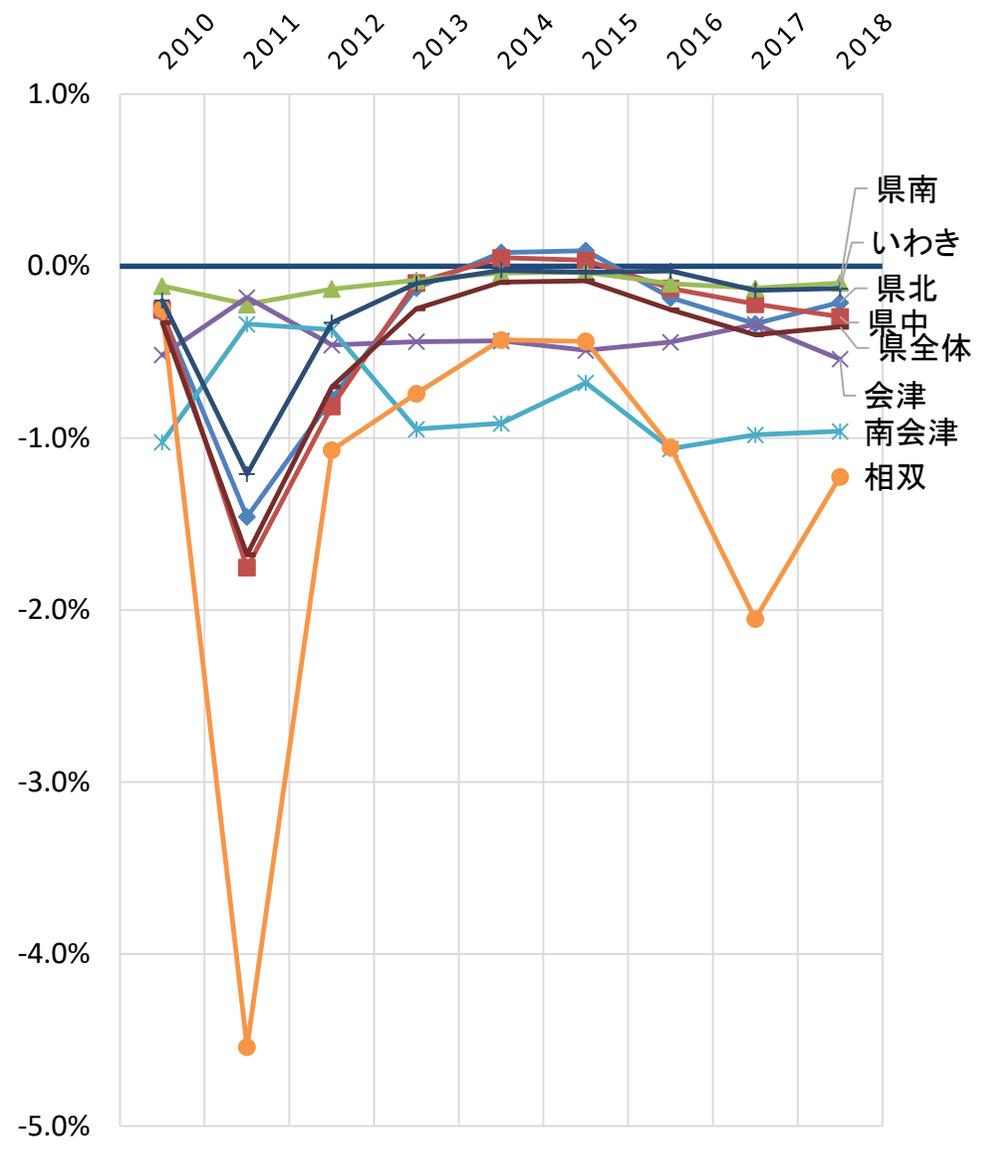
\* 2015年に増減しているのは、2015年国勢調査結果値に切り替えたため

出典：福島県の推計人口（福島県現住人口調査年報）（平成30年版）

## ○ 地域別自然動態の推移 (2010-2018)

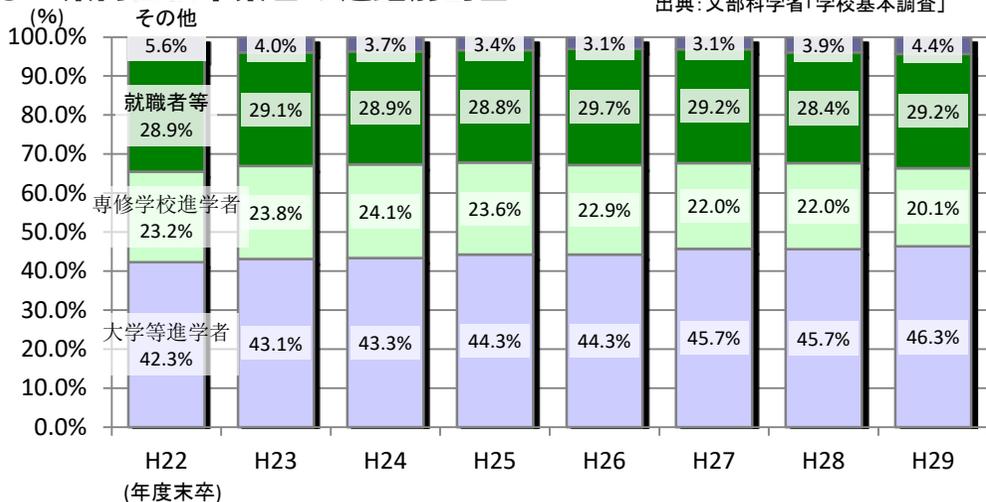


## ○ 地域別社会動態の推移 (2010-2018)

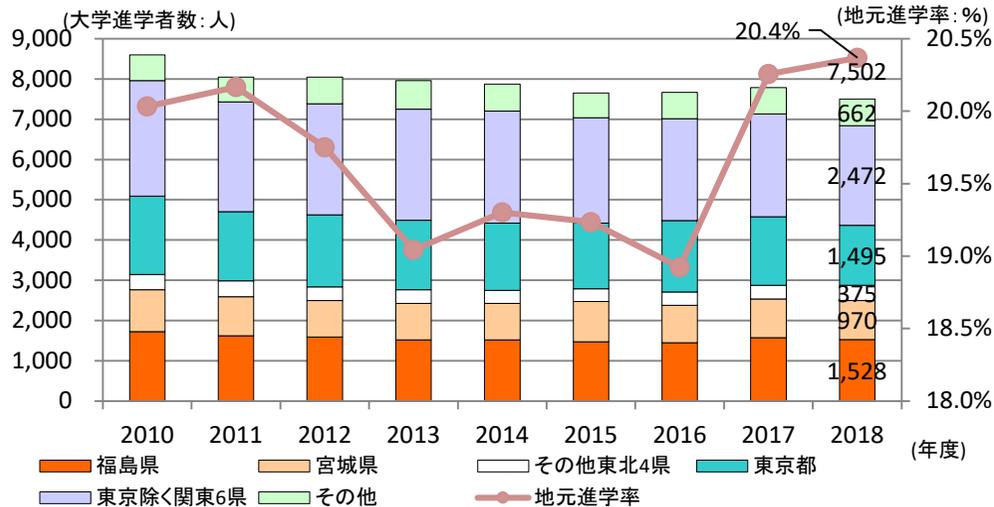


出典: 福島県の推計人口(福島県現住人口調査年報) (平成30年版)

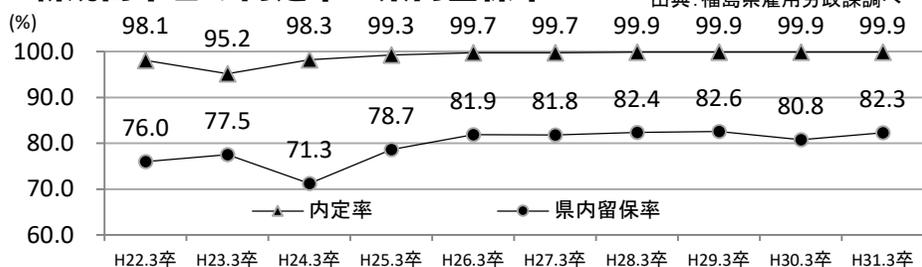
## ○ 県内高校卒業者の進路別割合



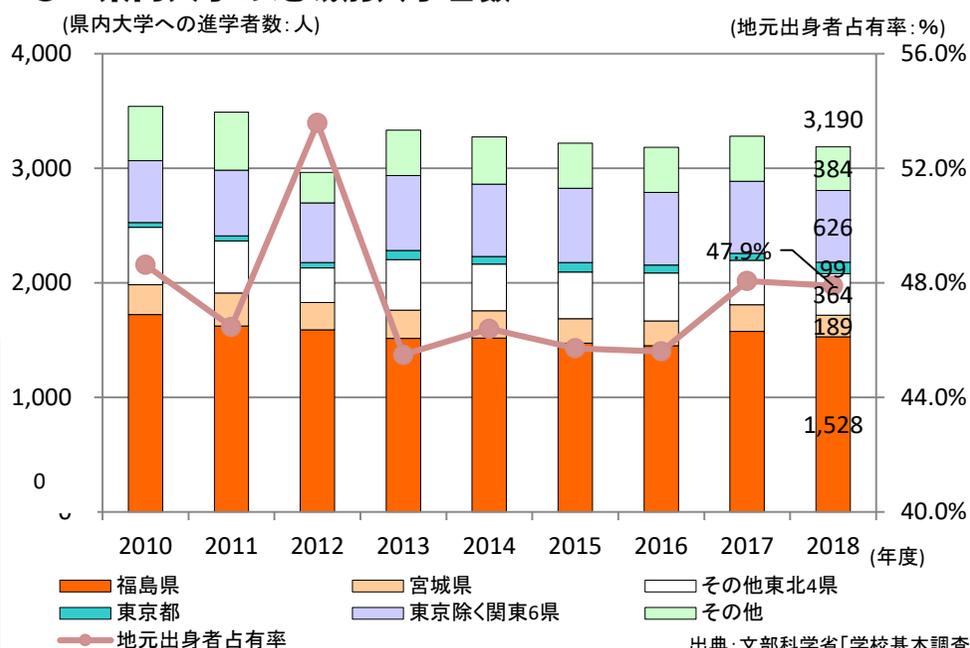
## ○ 県内高校卒業者の地域別大学進学者数



## ○ 新規高卒者の内定率・県内留保率



## ○ 県内大学の地域別入学者数



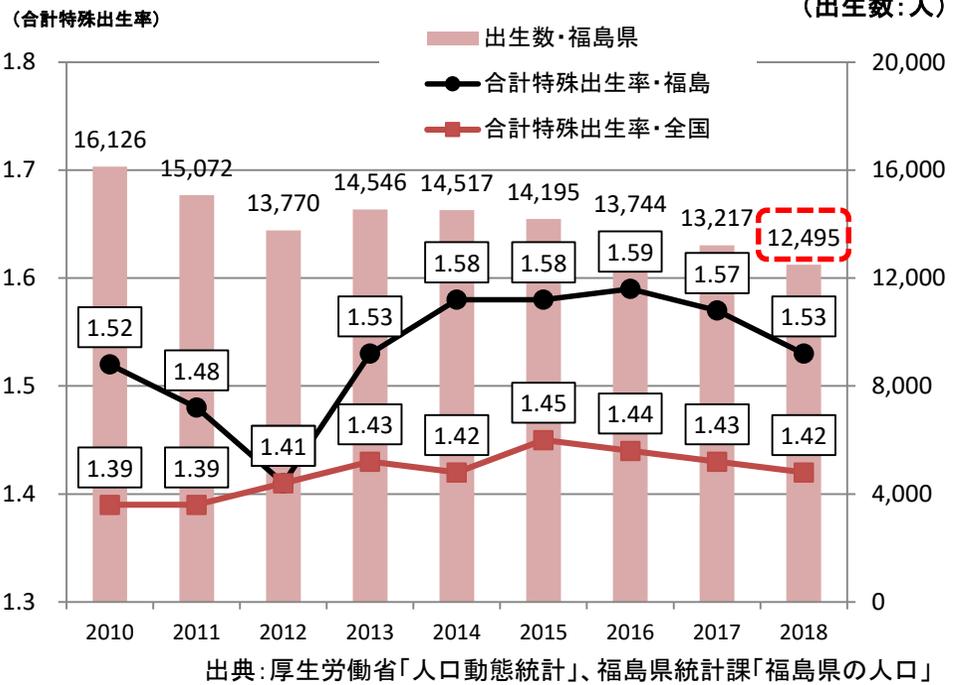
## ○ 平成31年3月大学等卒業者の就職内定状況

出典: 福島労働局 (単位: 人)

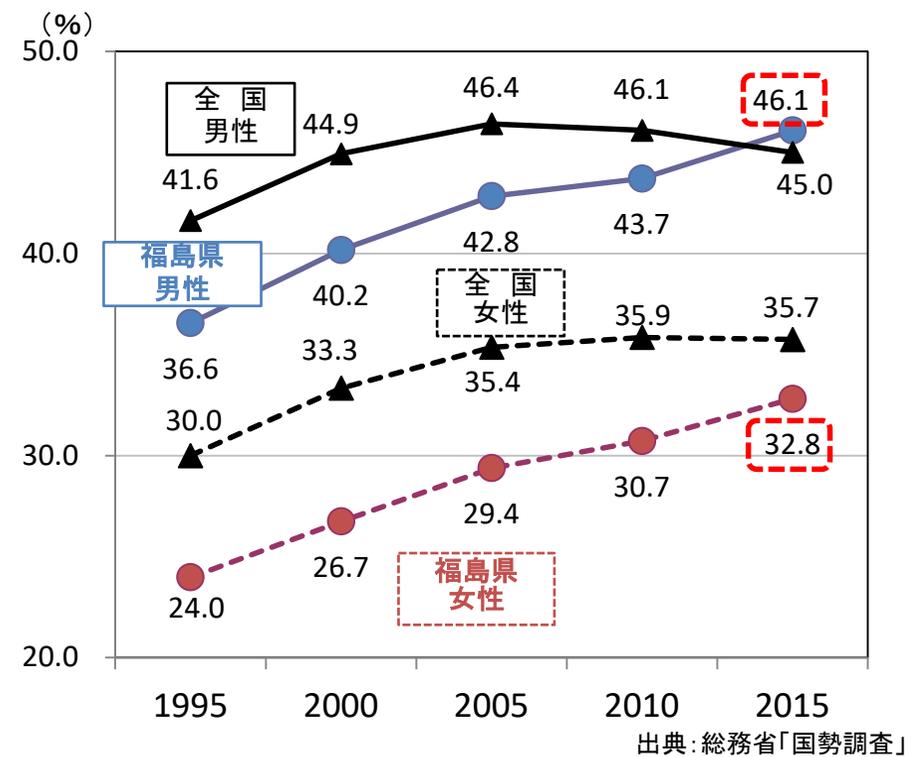
区分	卒業者	就職希望者数		就職決定(内定)者数			
		県内	県外	県内	割合	県外	割合
大学	2,960	912	1,654	885	35.3%	1,621	64.7%
短期大学	841	541	227	513	70.2%	218	29.8%
高等専門学校	213	27	79	27	25.5%	79	74.5%
専修学校	1,432	785	382	762	67.3%	370	32.7%
計	5,446	2,265	2,342	2,187	48.9%	2,288	51.1%

県内の未婚率は男女ともに増加傾向。出生数は過去最少を更新

## ○ 合計特殊出生率及び出生数 (2008-2018)



## ○ 未婚率の推移 (20~49歳の男女, 1995-2015)



## ○ 少子化・子育てに関する県民意識

理想的な子どもの人数：2.54人、実際の子どもの人数：2.23人

・理想的な子どもの人数を持ってない理由

子育てや教育にお金がかかりすぎるから	72.0%
子育ての精神的・肉体的負担が大きいため	50.6%

出典：「少子化・子育てに関する県民意識調査」報告書《速報》(抜粋版)  
令和元年度第1回福島県子ども・子育て会議 資料5を元に作成  
(実施時期：R1.5月-6月、対象者：県内9000人、N=2,489)

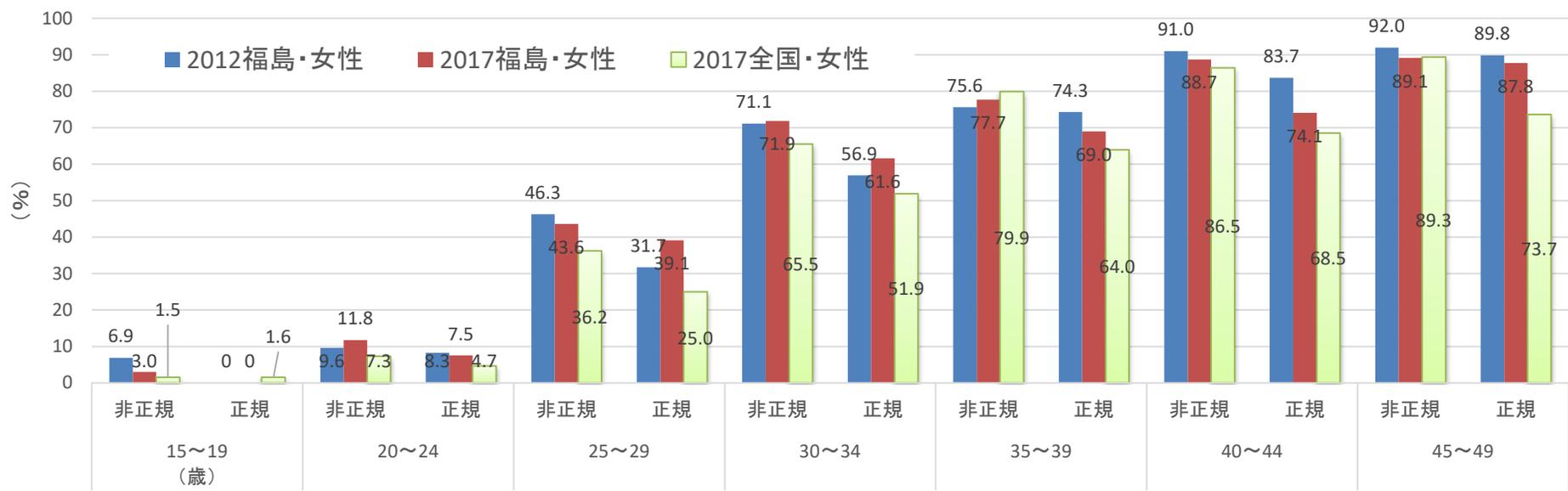
・子育て環境の整備や少子化対策で期待すること

児童手当・児童扶養手当拡充、医療費助成、保育料軽減等、子育て世代への経済的な支援	44.7%
教育費用の軽減や奨学金制度の充実	32.6%
待機児童解消のための保育所等の整備や放課後児童クラブの充実	18.3%

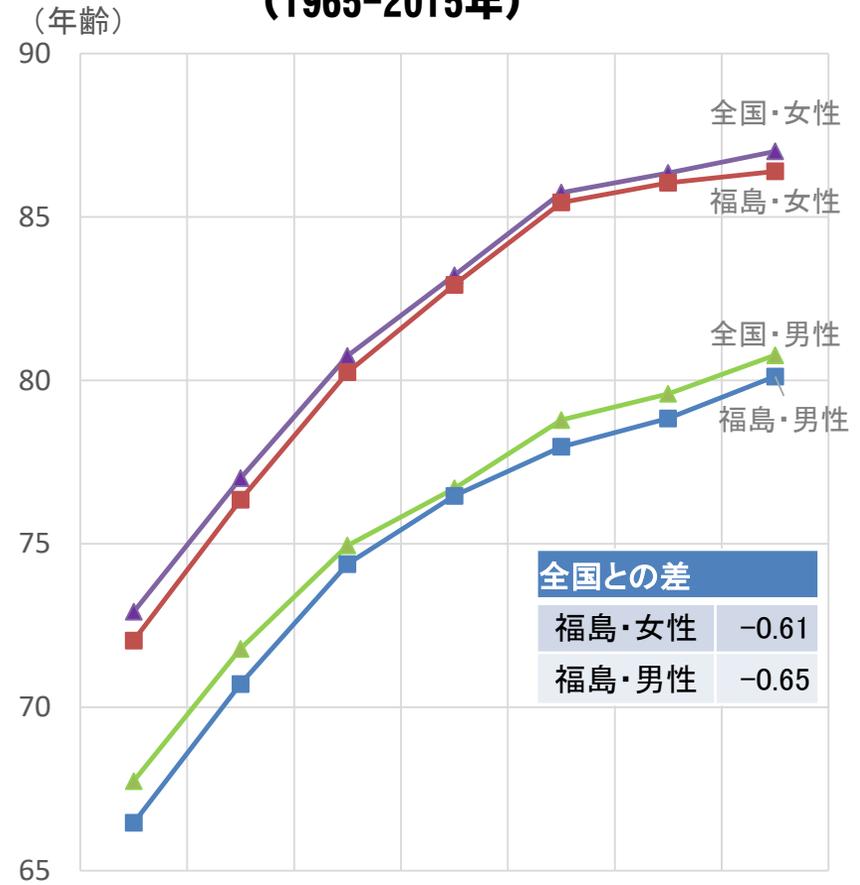
男性は正規雇用者の有配偶率が高い。女性は雇用形態によらず有配偶率が高い

## 男女別雇用形態別の有配偶率の推移（2012-2017）

出典：総務省「就業構造基本調査」



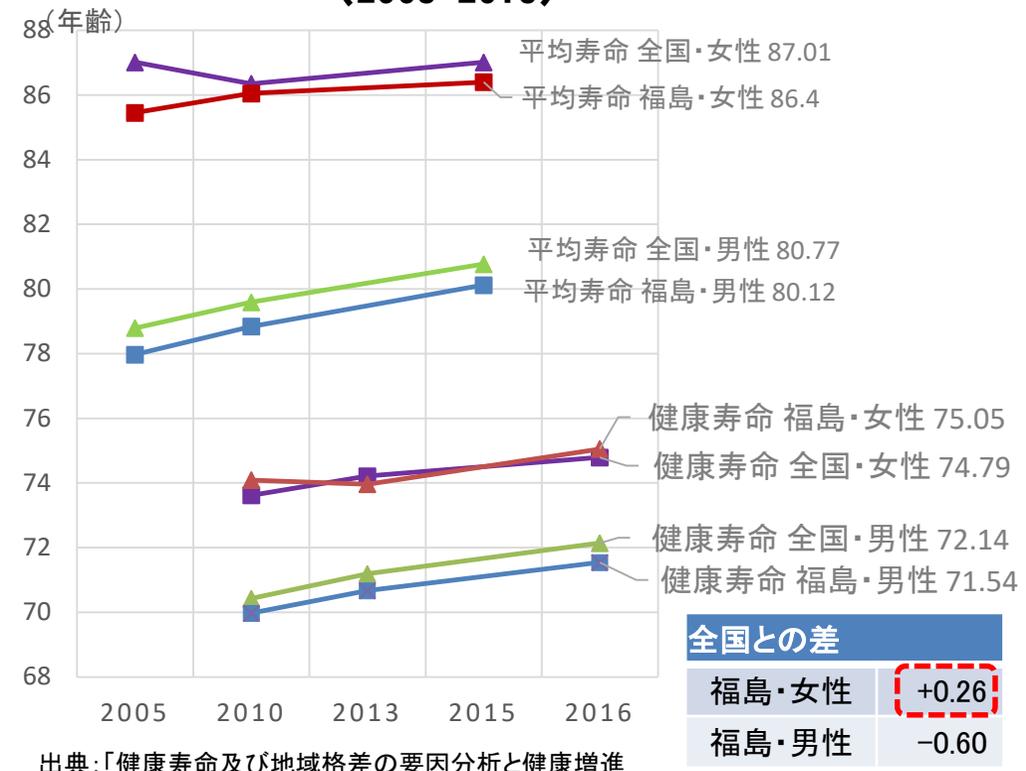
## ○ 県平均寿命の推移 (1965-2015年)



	1965	1975	1985	1995	2005	2010	2015
全国・女性	72.92	77.01	80.75	83.22	85.75	86.35	87.01
福島・女性	72.04	76.35	80.25	82.93	85.45	86.05	86.40
全国・男性	67.74	71.79	74.95	76.70	78.79	79.59	80.77
福島・男性	66.46	70.71	74.38	76.47	77.97	78.84	80.12

出典：厚生労働省「都道府県別生命表の概況」

## ○ 平均寿命と健康寿命の推移 (2005-2016)

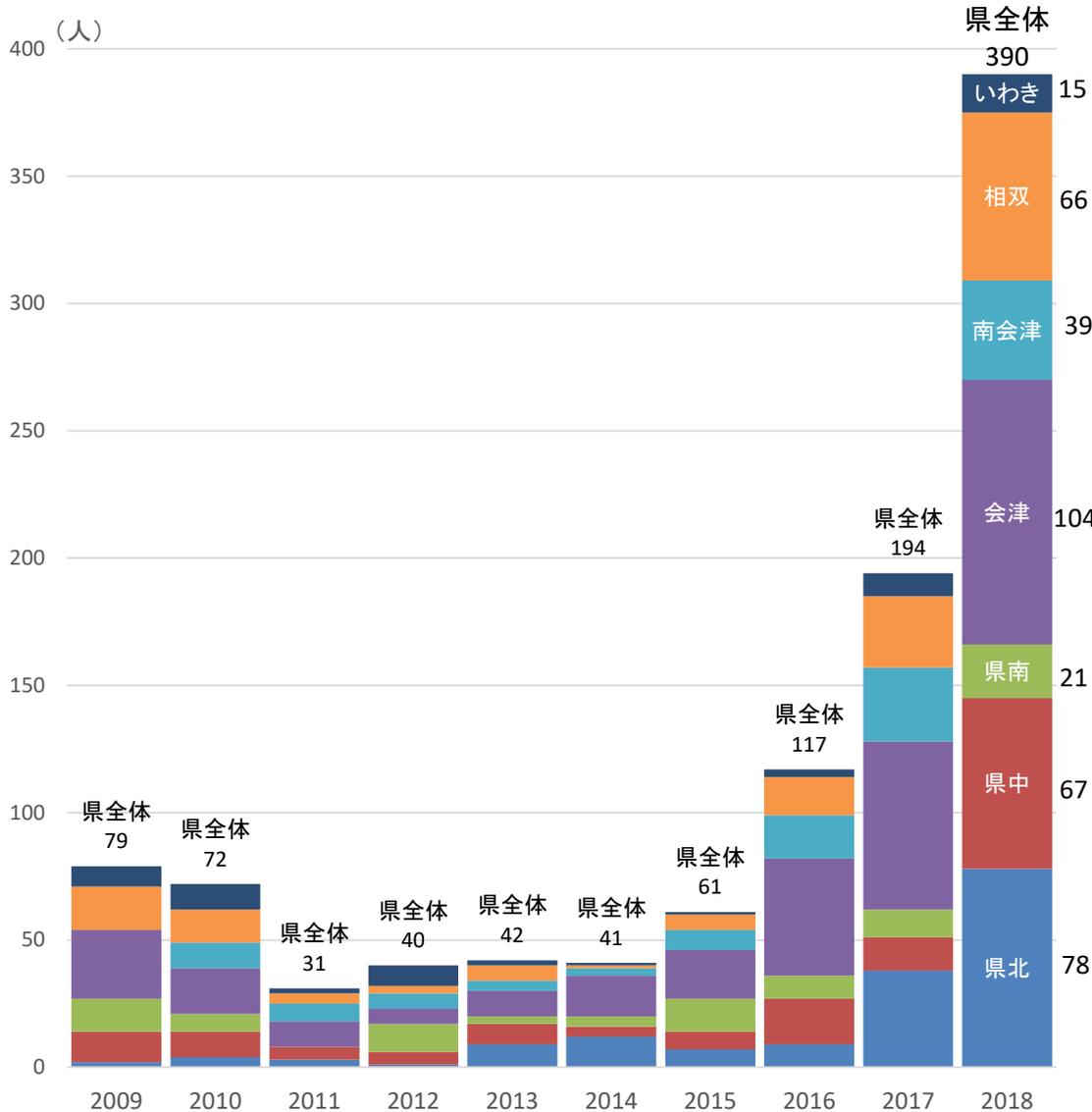


出典：「健康寿命及び地域格差の要因分析と健康増進対策の効果検証に関する研究」(厚生労働科学研究)

表：2010→2015 (2016) の差

	福島		全国	
	健康寿命	平均寿命	健康寿命	平均寿命
女性	+0.96	+0.35	+1.17	+0.66
男性	+1.57	+1.28	+1.72	+1.18

## ○ 定住・二地域居住世帯の実績推移（2009-2018）



\* 福島県県地域振興課調べ（県が把握できたものに限る）

## ○ 移住促進に向けた課題

### 不安な点

収入の確保	33.5%
仕事の確保	28.8%
冬の寒さ	27.1%
人間関係 (近所づきあいなど)	26.3%

### 特に必要だった情報

生活環境	55.7%
住居	48.9%
就職転職	35.2%

### 必要な情報の入手方法

友人知人から	46.8%
家族親戚から	41.9%
市町村ホームページ	38.6%

平成30年度福島県UIターン実態調査より一部抜粋  
(実施時期: H30.7月-H31.2月、対象: 各市町村の転入届窓口にて転入届を提出した方7,387名、N=902)

## 福島県の民営事業所の従事者数と付加価値額（全国との比較）

産業	事業従事者			付加価値額 * 1			一人当たり付加価値額 * 1		
	従事者数 (人)	構成比 (%)	特化係数 * 2 (対全国)	付加価値額 (百万円)	構成比 (%)	特化係数 * 2 (対全国)	福島県 (百万円)	全国 (百万円)	全国比 (%)
農林漁業	7,346	1.0%	1.5	21,413	0.6%	1.5	2.9	3.4	-14.1%
鉱業・採石業・砂利採取業	525	0.1%	1.9	2,886	0.1%	0.4	5.5	33.1	-83.4%
建設業	76,790	10.0%	1.5	417,160	11.9%	1.7	5.4	5.8	-6.7%
製造業	164,434	21.3%	1.3	850,788	24.3%	1.2	5.2	6.6	-21.6%
電気・ガス・熱供給・水道業	4,442	0.6%	1.7	88,188	2.5%	1.9	19.9	21.1	-5.9%
情報通信業	7,199	0.9%	0.3	44,946	1.3%	0.2	6.2	9.8	-36.0%
運輸業・郵便業	39,539	5.1%	0.9	180,190	5.1%	0.9	4.6	5.5	-16.9%
卸売業・小売業	148,832	19.3%	0.9	620,178	17.7%	0.8	4.2	5.4	-22.9%
金融業・保険業	18,487	2.4%	0.8	160,365	4.6%	0.7	8.7	12.3	-29.3%
不動産業・物品賃貸業	13,759	1.8%	0.7	72,902	2.1%	0.7	5.3	6.8	-22.0%
学術研究・専門・技術サービス業	18,068	2.3%	0.7	108,876	3.1%	0.5	6.0	9.6	-37.4%
宿泊業・飲食サービス業	63,321	8.2%	0.9	132,104	3.8%	1.1	2.1	2.2	-3.2%
生活関連サービス業・娯楽業	30,962	4.0%	1.0	99,379	2.8%	1.0	3.2	3.6	-10.7%
教育・学習支援業	17,926	2.3%	0.7	61,698	1.8%	0.8	3.4	3.8	-8.6%
医療・福祉	96,314	12.5%	1.0	390,286	11.2%	1.4	4.1	3.2	27.3%
複合サービス事業	8,511	1.1%	1.2	40,770	1.2%	1.3	4.8	5.3	-9.4%
サービス業(他に分類されないもの) ※廃棄物処理業、警備業等	54,890	7.1%	1.0	207,829	5.9%	1.1	3.8	3.8	0.4%
全産業計	771,345	—	—	3,499,958	—	—	4.5	5.4	-15.4%

### ○主要基盤産業

農林漁業、建設業、製造業、電気・ガス・熱供給・水道業、複合サービス業

### ○基盤産業

鉱業・採石業・砂利採取業、宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽業、医療・福祉、サービス業(他に分類されないもの)  
※廃棄物処理業、警備業等

○ほとんどの産業において、従事者一人当たり付加価値額は全国平均を下回っている。

※1 「付加価値額」は、1年間の経済活動から新たに生み出された価値の合計であり、年間の「売上額」から「費用総額」を引いたものに「人件費」及び「租税公課」を足したものの。

※2 「特化係数」とは、産業の業種の構成などにおいて、その構成比を全国や県等の構成比と比較した係数で、産業の特徴などを分析する際に利用する。

例：対全国の特化係数 =  $\frac{\text{〇〇市の〇〇産業構成比}}{\text{全国の〇〇産業構成比}}$

左記表における特化係数は、全国の水準と比較したものであり、1以上あれば全国の水準を上回っていることを表す。

## ○ 本県産業の稼ぐ力、雇用力の高い産業10（平成28年）

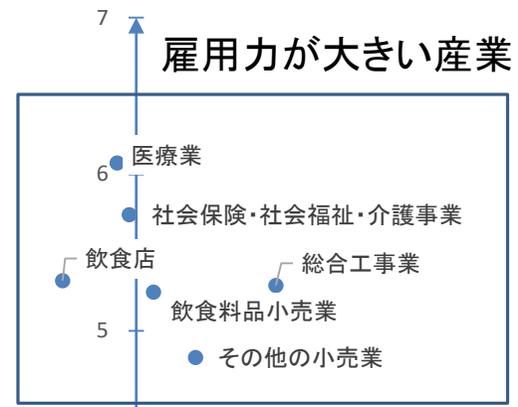
稼ぐ力 上位4	産業名	稼ぐ力	雇用力
1	情報通信機械器具製造業	1.32	1.48
2	ゴム製品製造業	1.13	0.64
3	業務用機械器具製造業	1.02	1.19
4	電子部品・デバイス・電子回路製造業	1.01	1.61
雇用力 上位6	産業名	雇用力	稼ぐ力
1	医療業	6.07	-0.07
2	社会保険・社会福祉・介護事業	5.74	-0.03
3	飲食店	5.32	-0.29
4	総合工事業	5.29	0.54
5	飲食料品小売業	5.25	0.07
6	その他の小売業	4.83	0.23

1次産業	
2次産業	
3次産業	

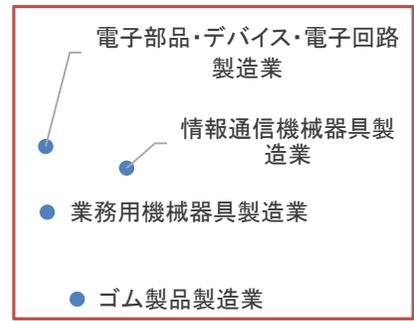
\*1 稼ぐ力:修正特化係数の対数変換値。1.0を超える産業は、地域にとって純移出がプラス(岡山大学中村教授が開発)  
 \*2 雇用力:全従業員数(813,638人)の構成比。上位6産業で32.5%(約26.4万人)が従事  
 \*3 修正特化係数:1を超えた産業が純移出を稼いでいると言える指標(ただし、まちの規模に優位差は比例)

- ①本県産業の稼ぐ力が1を超えている産業は、「製造業(電子部品、情報通信機械、業務用機械、ゴム製品)」の4産業であり、域外取引が主たる産業＝主要基盤産業と言える。
- ②主要基盤産業である「製造業」が拡大すると、域内取引が主たる産業(「医療業、飲食店、小売業」等)の雇用増加につながり、地域人口の増加が促される。

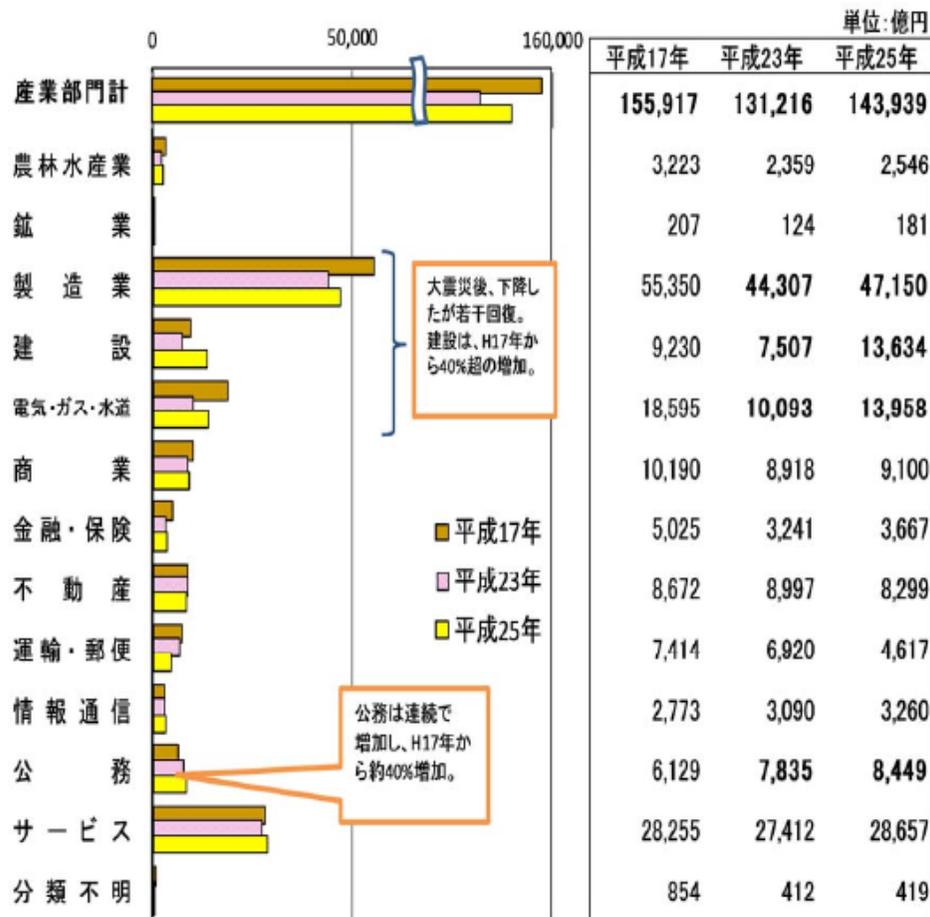
雇用力\*2(従業者比率%)



稼ぐ力が大きい産業



## ○ 産業部門別県内生産額の推移（13部門）

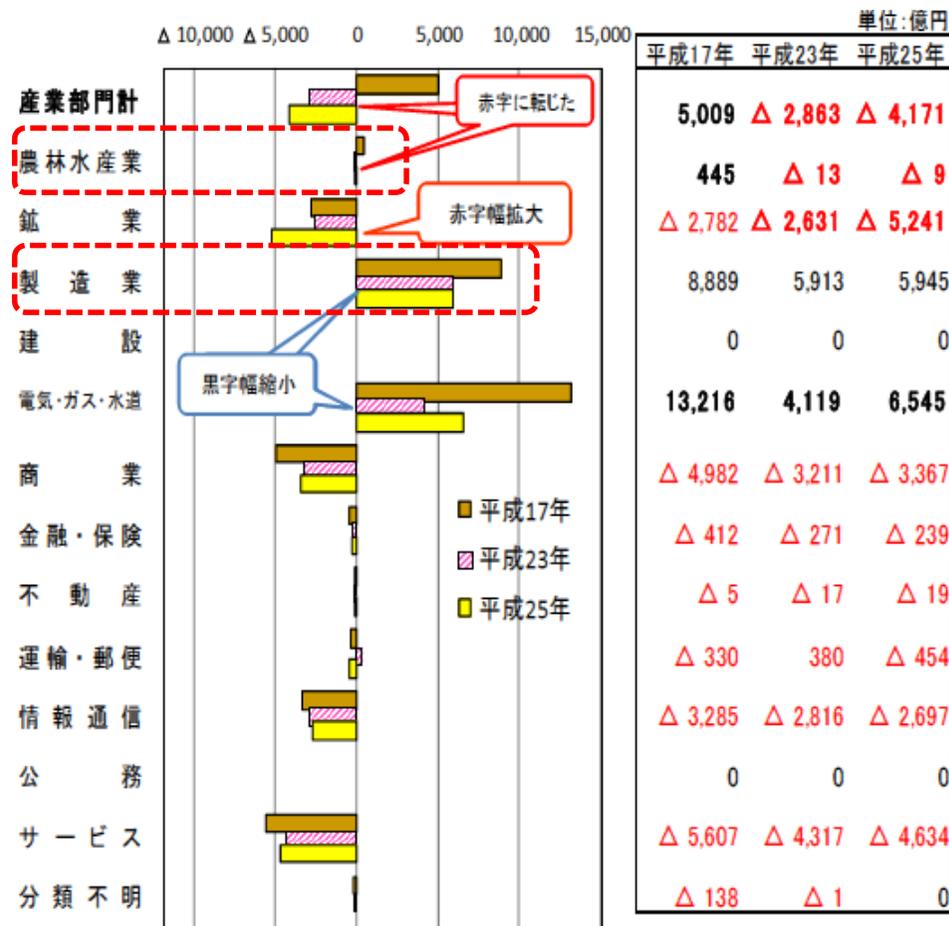


出典:福島県企画調整部統計課「福島県産業連関表」

- H25年の生産額は、H17年比の92.3%まで回復している（H23年比では109.6%）。
- 要因は、「製造業」が106%、「建設」が181%、「公務」が108%と増加したことによるもの。

## ○ 産業部門別県際収支\*1の推移（13部門）

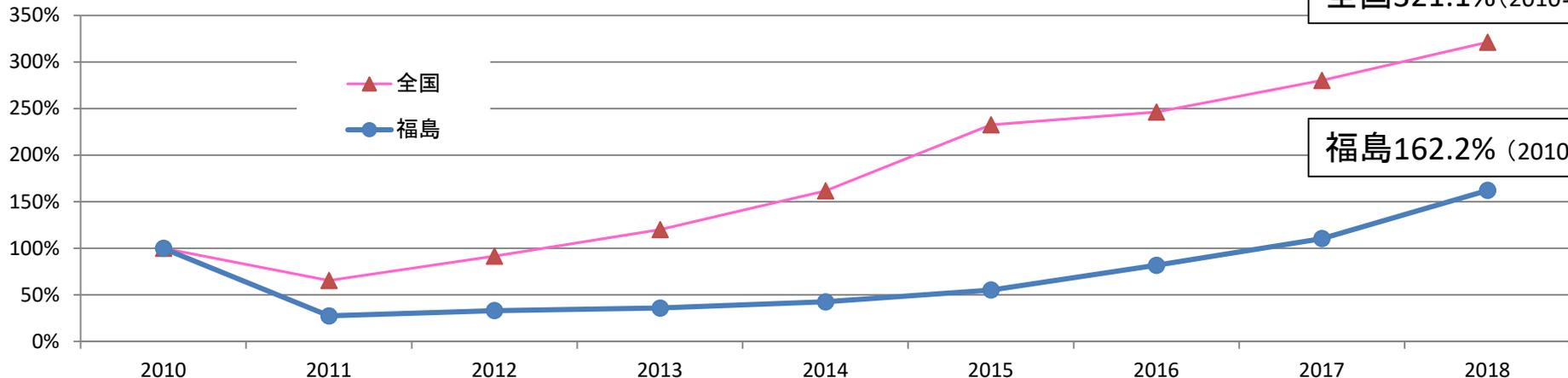
(\*1: 県際収支: 各産業部門における県外の移出入(売買)の差)



出典:福島県企画調整部統計課「福島県産業連関表」

- H25年の県際収支は赤字であり、赤字がH23年比で146%まで拡大している。
- この要因は「製造業」と「電気・ガス・水道」の生産額の黒字幅の減少等による。

## ○ 外国人延べ宿泊客数



	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
全国	26,023,000	17,015,780	23,822,510	31,242,220	42,072,820	60,509,240	64,066,730	72,933,660	83,566,460
福島	87,170	23,990	28,840	31,300	37,150	48,090	71,270	96,290	141,350

(単位:人泊)

【出典】観光庁 宿泊旅行統計調査(従業員が10人以上の宿泊施設の外国人延べ宿泊者数)

## ○ 県内外国人住民数



※平成23年までは 外国人登録者数

出典: 福島県の国際化の現状(平成30年度版)、福島県の推計人口を元に作成

## （1）広大な県土、豊かな自然環境

- ・ 全国3位の広大な面積を有し、その7割を豊かな森林が占めています。  
標高2,000m級の山々、猪苗代湖をはじめとする湖沼、太平洋に面する海岸線、各地域に点在する温泉地など、豊かで多様な自然を擁し、四季の彩りに恵まれています。
- ・ 猪苗代湖・磐梯山に代表される磐梯朝日国立公園、尾瀬国立公園などの世界にも誇れる景観や自然環境、阿武隈川や阿賀川、久慈川などの多くの源流域、これらは未来に引き継ぐべき貴重な財産です。

### 〔データ等〕

・総面積	13,783.9km <sup>2</sup> (全国3位)	<国土交通省「全国都道府県市区町村別面積調」H30.10.1現在>
・自然公園面積	179,081km <sup>2</sup> (全国6位)	<環境省「自然公園都道府県別面積総括」H31.3.31現在>



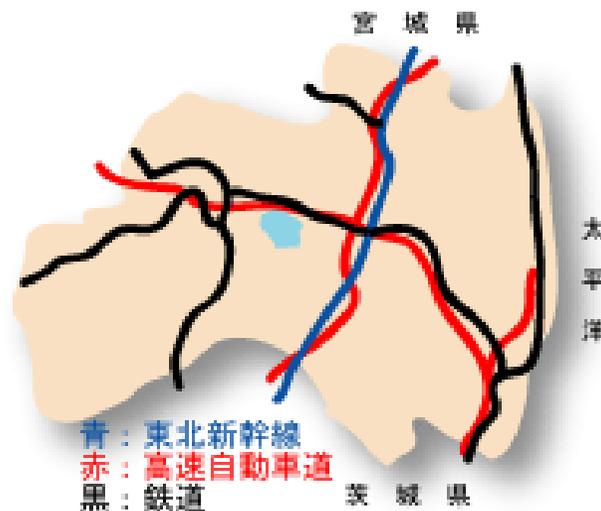
## (2) 特色ある県土構造

- ・ 広大な県土は、南北に縦走する阿武隈高地、奥羽山脈によって、それぞれに気候・風土の異なる、浜通り、中通り、会津の3地方に区分されています。
- ・ 特定の都市に人口や機能が集中することなく、県内各地に都市が分散した特色ある多極分散型の県土構造となっています。  
 その中で、都市と農山村がそれぞれの特性を生かしながら、特色ある生活圏をかたちづくっています。



## (3) 有利な地理的条件

- ・ 東京から約200km圏に位置するという地理的優位性が、交通ネットワークの整備によって一層高まっています。
- ・ 首都圏と東北圏の結節点に位置しており、交流により活力を維持していく上でも、極めて有利な地理的条件にあります。



### （４）多様な産業構造

- ・ 製造業は特定の分野に偏ることなくバランス良く集積しています。医療関連産業、輸送用機械関連産業などの集積が進む一方で、漆器、陶磁器、日本酒などの伝統工芸もしっかりと受け継がれています。
- ・ 東日本大震災及び原子力災害で失われた浜通り地域等の産業を回復するため、ロボットやエネルギー等の新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクトとして福島イノベーションコースト構想が進んでいます。
- ・ 変化に富んだ気候などを生かし、米、園芸作物（野菜、果樹、花き、きのこ等）、畜産などが営まれています。

大消費地である首都圏に隣接する条件の下、全国有数の耕地・森林面積を有しています。



〔データ等〕

・製造品出荷額	51,203億円(全国22位)	<経済産業省「平成30年工業統計調査結果速報」H30.6.1現在>
・全国新酒鑑評会における金賞受賞数	7年連続日本一	(2012～2018年)
・医療用機械器具・同器具部品出荷額	977億円(全国1位)	<経済産業省「平成29年工業統計調査結果確報」>
・航空機用エンジン部品出荷額	2,158億円(全国2位)	<経済産業省「平成29年工業統計調査結果確報」>
・耕地面積	1,408百ha(全国7位)	<農林水産省「平成30年耕地及び作付面積統計」H30.7.15現在>
・森林面積	9,738百ha(全国4位)	<林野庁「都道府県別森林率人工林率」H29.3.31現在>
・水稲収穫量	3,641百t(全国6位)	<農林水産省「平成30年作物統計」>

### （5）豊かな地域資源

- ・ 豊かな自然環境、温泉やゴルフ場、米や果物を始めとした豊かな食材、相馬野馬追や会津田島祇園祭を始めとした伝統文化、鶴ヶ城や白水阿弥陀堂を始めとした文化財など、特色ある地域資源に恵まれています。
- ・ 首都圏に隣接していながら身近に自然を満喫できる地域であり、若い世代の定住・二地域居住先として人気が高まっています。



相馬野馬追



大内宿

〔データ等〕

・ 温泉地数 136カ所（全国4位） <環境省「平成29年度温泉利用状況」H30.3.31現在>

### （6）ゆとりある生活環境、温かな県民性、暮らしやすさ

- ・ 首都圏に比べ、通勤・通学時間が短く、身近なところに豊かな自然があふれ、利便性が高く、ゆとりある生活環境となっています。
- ・ 人と人とのふれあいや支え合いの精神など、人々の温かさや絆が息づいています。
- ・ 若い世代を中心に、ふくしまを支えている人たちの役に立ちたい、ふるさとで働くことが復興につながっていく、という思いから、県内の復興に貢献しようとする動きが見られます。

〔データ等〕

・人口密度(1km <sup>2</sup> 当たり)	138.9人(全国40位)	(東京6,168.7人、全国平均340.8人)	<総務省「国勢調査報告」H27.10.1現在>
・通勤・通学時間	64分(全国26位)	(東京91分、全国平均77分)	<総務省「平成28年社会生活基本調査」>
・実収入(1世帯当たり1か月間)	611.8千円(全国5位)	(東京593.0千円、全国平均535.2千円)	<総務省「社会生活統計指標2019」>
・3世代世帯割合	11.96%(全国8位)	(東京1.81%、全国平均5.67%)	<総務省「国勢調査」H27.10.1現在>
・合計特殊出生率(2018年)	1.53(全国12位)	(東京1.20、全国平均1.42)	<厚生労働省「平成30年人口動態統計」>
・幼稚園数(3~5歳人口10万人当たり)	668.3園(全国2位)	(東京323.8園、全国平均377.3園)	<総務省「社会生活統計指標2019」>
・社会体育施設(人口100万人当たり)	754.4(全国6位)	(東京158.2、全国平均506.1)	<総務省「社会生活統計指標2019」>

